

南海トラフ巨大地震の津波断層モデル

- 発生しうる最大クラスの地震
- 発生頻度は極めて低い (内閣府公表資料より)

【ケース⑥「駿河湾～紀伊半島沖」に「大すべり域+（超大すべり域、分岐断層）」を設定】

南海トラフ巨大地震等による東京の被害想定について

今回の被害想定実施の考え方

- 国の被害想定 (H24. 8. 29) は、島ごとの被害状況が非公表となるなど不十分な内容
⇒ 島ごとの詳細な被害想定結果を島しょ町村に提供し、防災対策の取組を支援

○ 津波高・浸水域、人的・建物被害などについて、国の南海トラフ巨大地震モデル (M9 クラス) を使用し検証

地震

国が示した複数の震源モデルのうちから、都にとって最もゆれが大きくなるモデルを用いて、都内の震度分布を想定

津波

国が示した複数の波源モデルのうちから、東京湾沿岸部及び伊豆諸島・小笠原諸島の島ごとに最大の津波高となるモデルを採用
特に、島しょ部では、港ごとの最大津波高、浸水域について詳細に想定

○ 被害想定結果の特徴等

<島しょの被害>

- ◆ ゆれや液状化などによる被害は小さい
- ◆ 津波高が高く、津波浸水域における建物被害や人的被害が想定される
- ◆ ただし、島の急峻な地形により浸水しない地域も多い

◎ 迅速に避難することができれば、津波による死者ゼロの可能性はある

- ほとんどの地域が震度5強以下
- 最大津波高は T.P. 30.16m、到達時間は15分程度 (新島)
- 建物の全壊棟数は、最大で約1,300棟
うち津波による全壊棟数は約1,200棟
- 深夜の人的被害は、最大で約1,800人 (早期避難率が低い場合)

<区部・多摩におけるゆれ・津波>

- ◆ 最大震度、液状化危険度、津波高などは、首都直下地震等の想定結果より低い

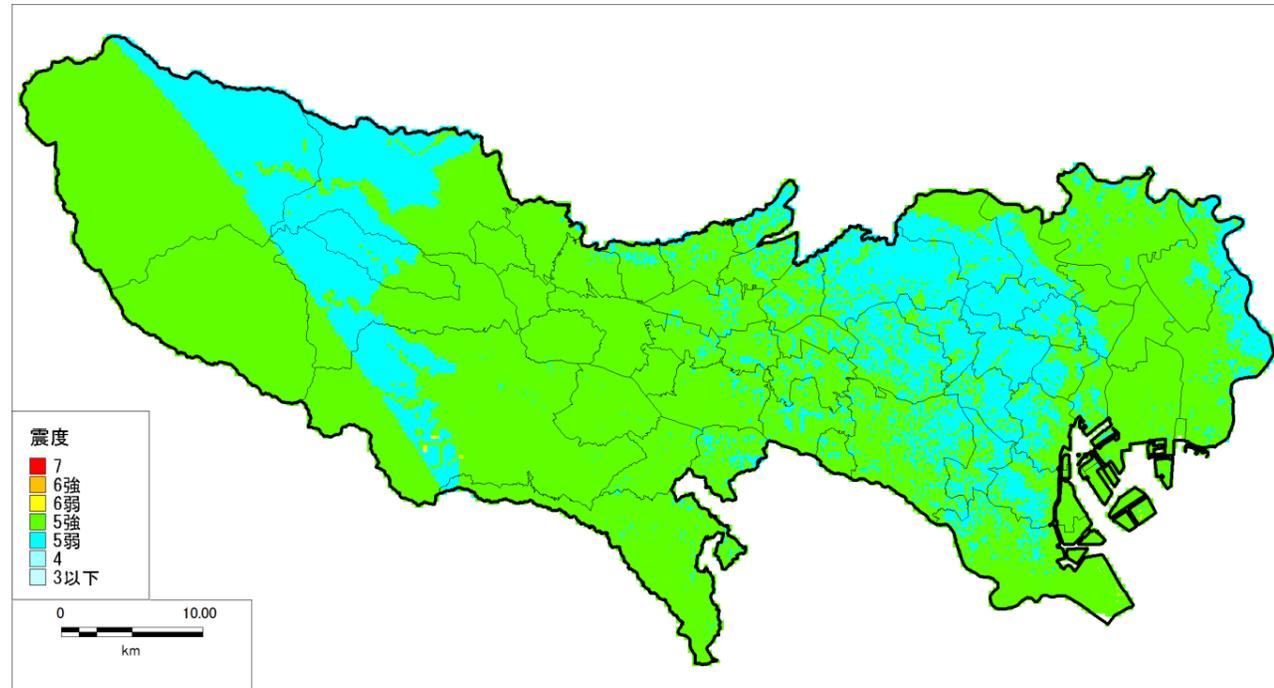
◎ これまでの対策を推進することが、南海トラフ巨大地震への備えとなる

- ごく一部で震度6弱が出るが、ほとんどの地域が震度5強以下
(参考) 東京湾北部地震：震度7を含む6強以上の範囲が区部の約7割
- 最大津波高は T.P. 2.48m (江東区) で、元禄型関東地震の T.P. 2.61m (品川区) より低い

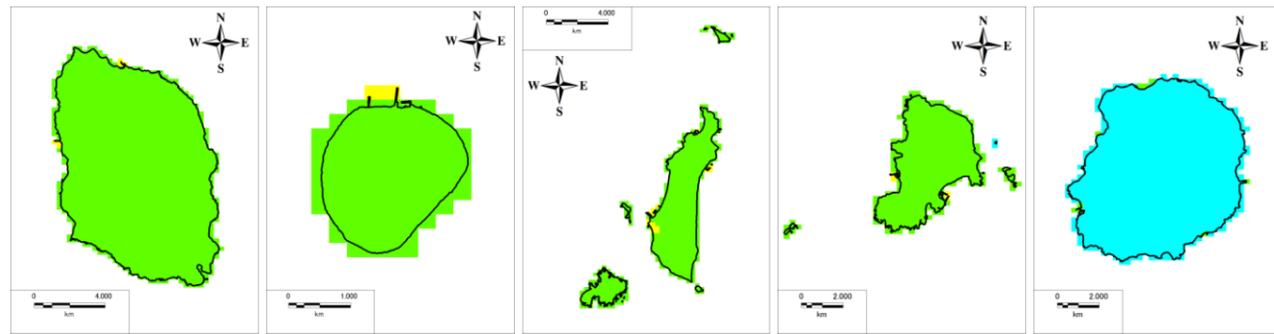
※T.P. = 東京湾平均海面、津波高はすべて地殻変動量を含む

被害想定結果の概要

震度分布



区部・多摩



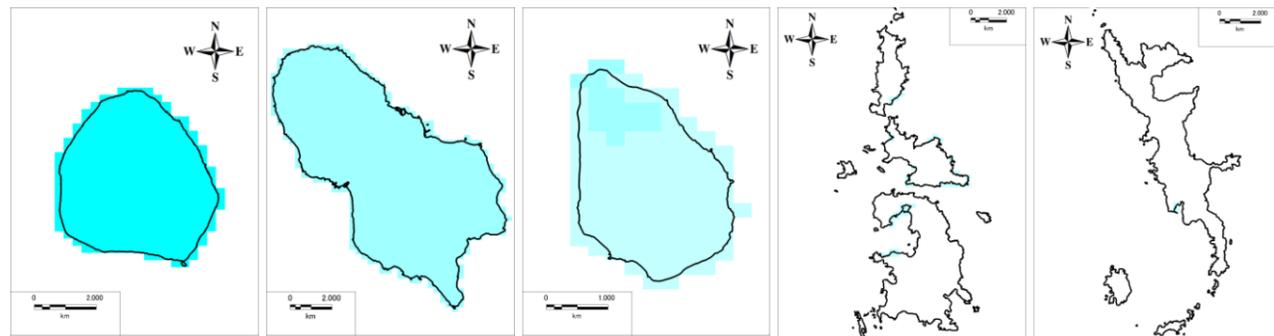
大島

利島

新島・式根島

神津島

三宅島



御蔵島

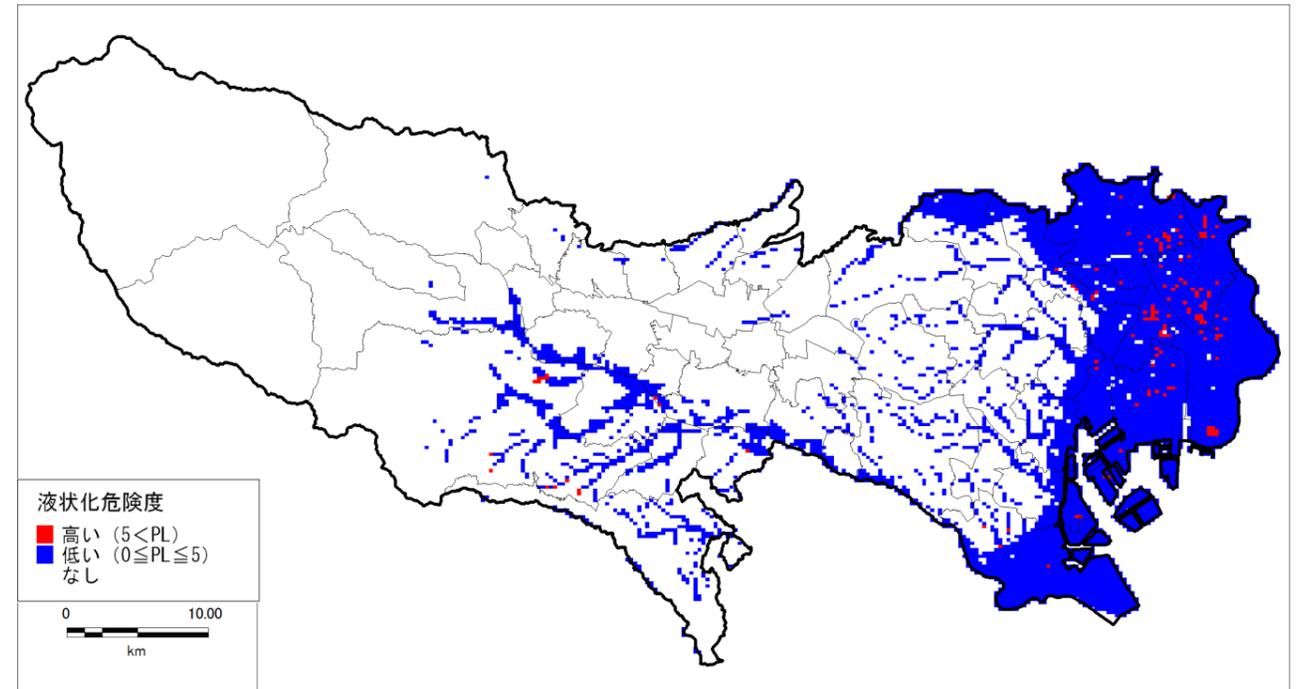
八丈島

青ヶ島

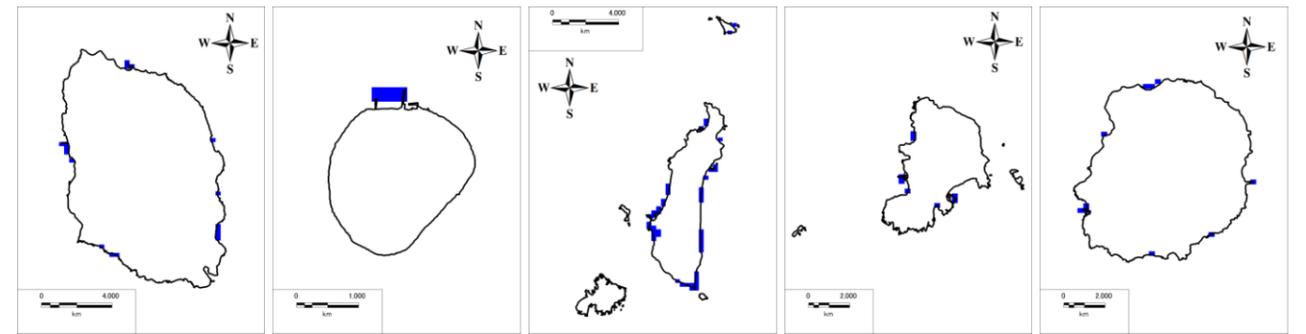
父島

母島

液状化危険度



区部・多摩



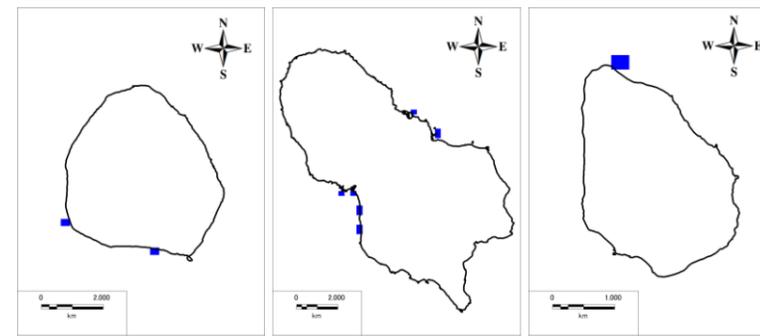
大島

利島

新島・式根島

神津島

三宅島

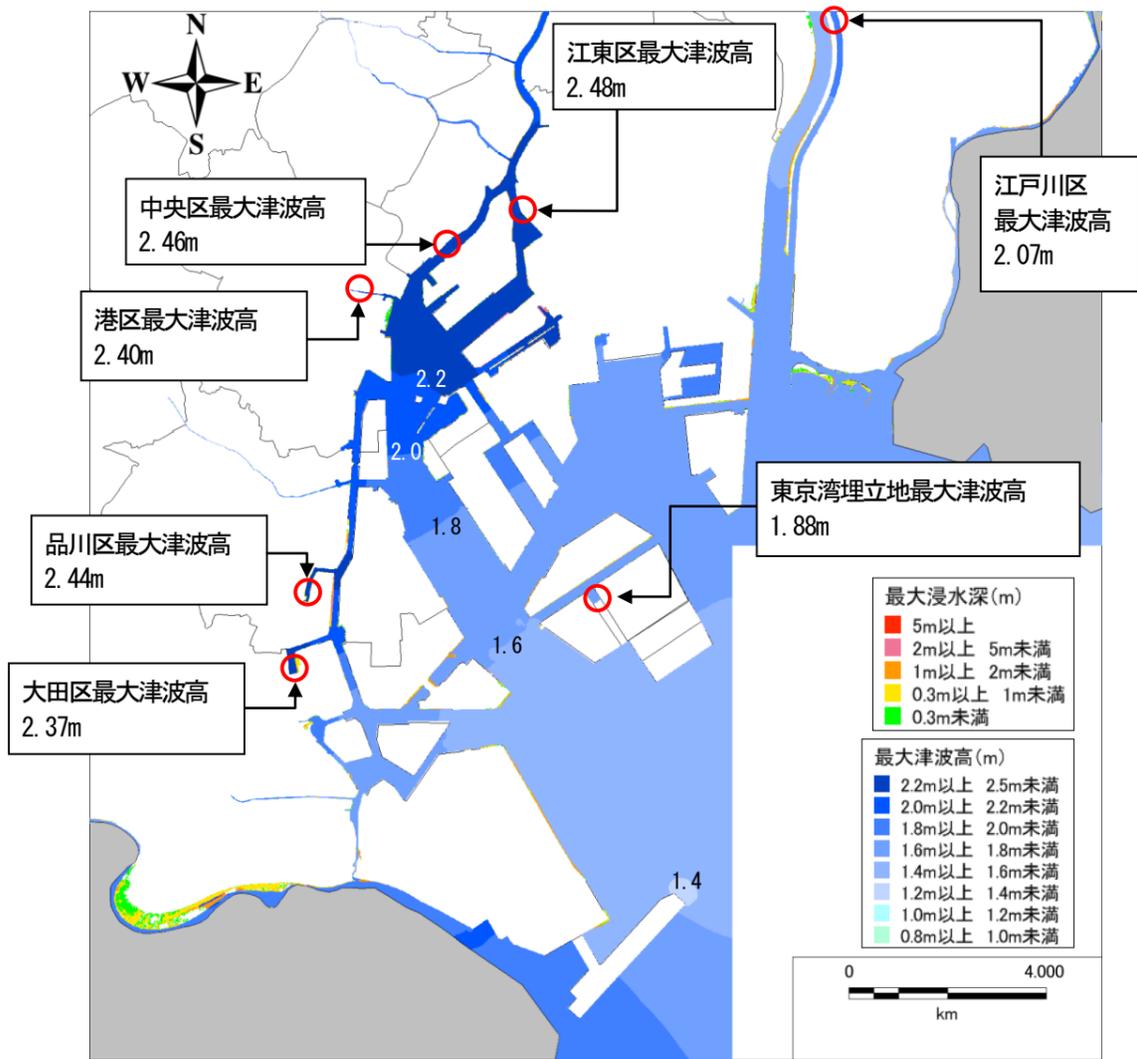


御蔵島

八丈島

青ヶ島

津波高・浸水域

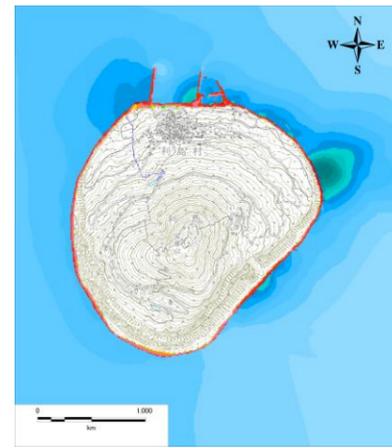


| 区市町村名 | 最大津波高 (m) 地殻変動考慮 |
|--------|---------------------|
| 東京湾埋立地 | 1.88 |
| 中央区 | 2.46 |
| 港区 | 2.40 |
| 江東区 | 2.48 |
| 品川区 | 2.44 |
| 大田区 | 2.37 |
| 江戸川区 | 2.07 |

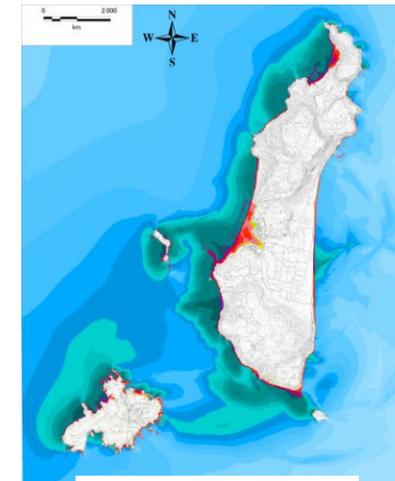
東京湾 (水門閉鎖の場合)



大島
(2.19m~15.76m)



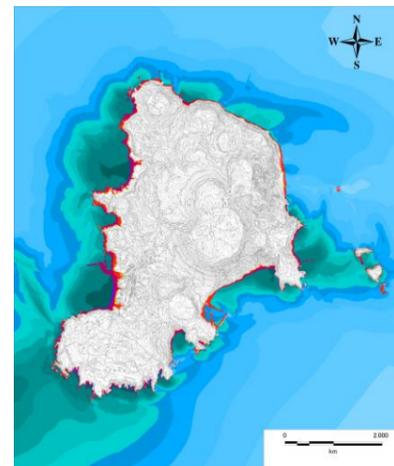
利島
(5.16m~16.18m)



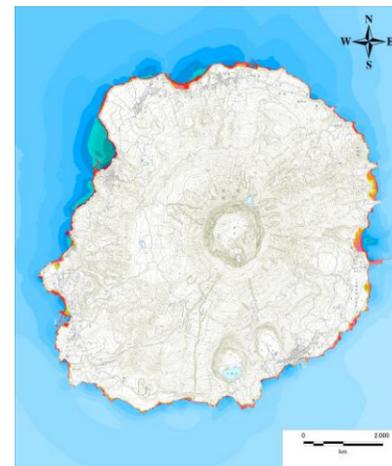
新島
(4.97m~30.16m)



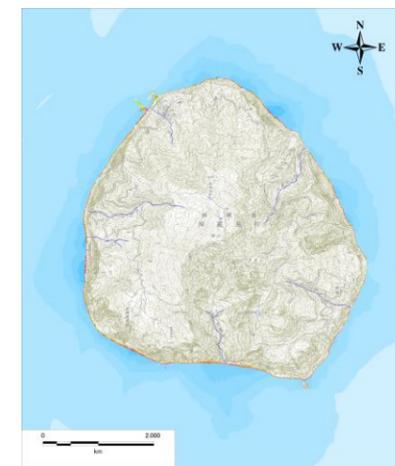
式根島
(5.1m~28.15m)



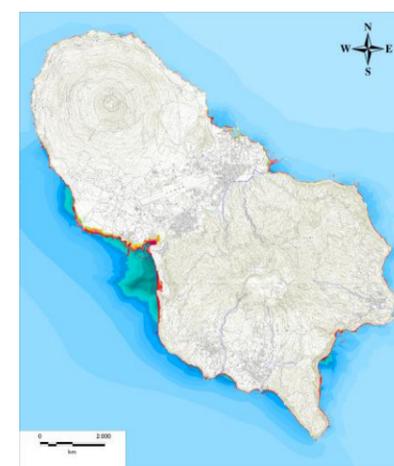
神津島
(4.72m~28.43m)



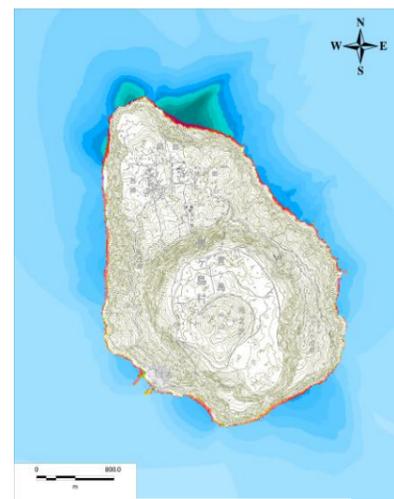
三宅島
(3.22m~16.98m)



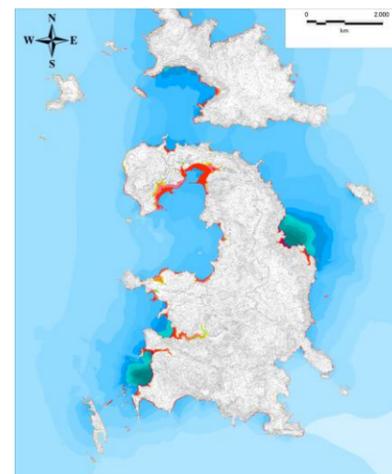
御蔵島
(2.71m~7.37m)



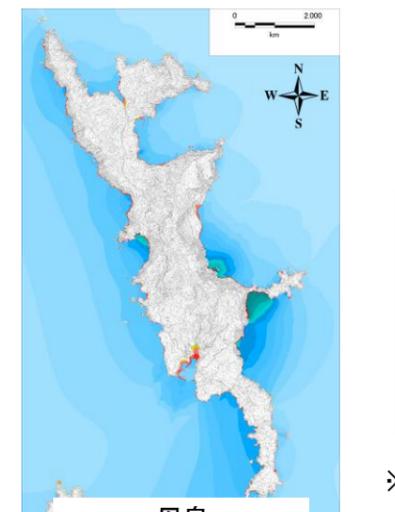
八丈島
(3.28m~18.07m)



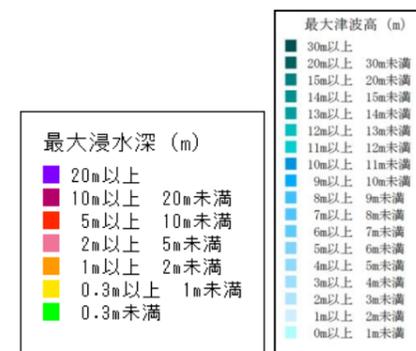
青ヶ島
(3.48m~17.68m)



父島
(1.91m~18.52m)



母島
(2.9m~15.91m)



※ カッコ内は、その島の最大津波高の幅